

ゆきともけ くすのき
9. 行友家と楠



◆所在地

東淀川区菅原1丁目12番18号

◆概要

菅原1丁目にある行友家は、弘化元年(1844年)に建築された古民家で、北側道路に面したところに、門、塀、石垣が配置されており、門の両脇にある2本の大きな楠と一体となって、歴史を感じさせる一角となっている。楠は遠くからでもよく見え、直近ではその大きさに圧倒されるほどで、そのうちの1本が保存樹に指定されている(高さ約22m、幹回り約4.4m)。

いちりゅうけもんへい
10. 一柳家の門・塀



◆所在地

東淀川区菅原1丁目16番3号

◆概要

一柳家の先祖は、中島大水道の開削にあたり、その実現に苦勞を重ねた責任者の一人の一柳太郎兵衛であった。一柳家の亀岡街道沿いには、歴史を感じる板塀・門・土塀が連なっており、その中でも、現在残る土塀には当時の瓦がぬりこめられており、続く四脚門は民家には珍しく共に風情をそえる。また土塀の脇には、天保7年(1836年)建立の亀岡街道と瑞光寺への道標があり、旧街道沿いの街並みを偲ばせる。

すがはらてんまんくう
11. 菅原天満宮



◆所在地

東淀川区菅原2丁目3番27号

◆概要

菅原道真公を祭神とし、寛永年間(1624~44年)、この地が開発されたときに勧請された。代々の言い伝えでは延喜元年(901年)に菅原道真が大宰府へ左遷され淀川を船で下る途中、当地摂津の国、二重新家村住民の出迎えを受けて上陸され住民が牛を引きまわし、

道真公をおなぐさめした由緒ある土地であるとされる。境内は一段高く、小丘陵になっている。

天保(1830~44年)の頃、時の代官築山蔵左門が「堤防崩壊禁止令」を出し、堤防の盛り土を命じた。その名残が現在も幼稚園児が毎年10月25日に天秤棒に清めの砂を盛り、担いで石段を登り境内に砂を運ぶ「砂持ち行事」が行われている。

境内には、江戸時代の神燈や水鉢などがあり、樹齢約500年といわれる楠はひときわ目をひく。現在の社殿は、昭和43年に再建されたものである。

12. せせらぎの遊歩道



◆所在地

東淀川区大桐 3丁目～5丁目

◆概要

大桐 3～5 丁目にかけて、延長 610 メートルのせせらぎの遊歩道がある。木々が生き茂り、小川が流れている。この小川は、昔、農業用水路として使っていた。

子どもたちの水遊びや虫取りをする楽しそうな声、お父さんと楽しそうに散歩する姿、買い物の途中にベンチで一休みをしている方など、都会のオアシスとして親しまれている。

北側 360m区間は、岩や石を配して日本庭園風に、南側の 250m区間は、タイルを敷きつめ、洋風式庭園にとそれぞれ趣向がこらされている。

13. 逆巻の地蔵尊



◆所在地

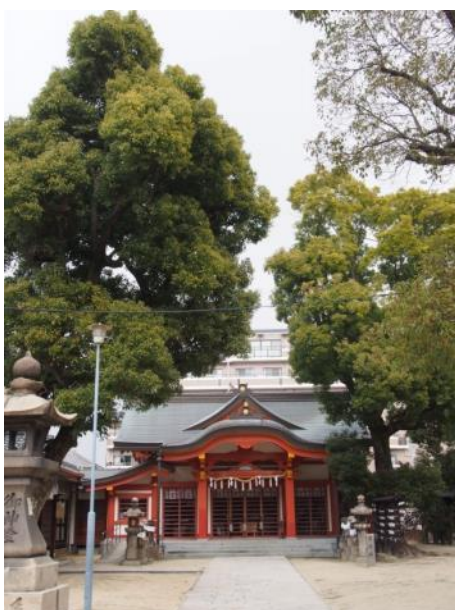
東淀川区大桐 5丁目 4番

◆概要

「逆巻の地蔵尊」は、弘化 3 年 (1846 年)、豊里大橋付近の逆巻村 (現在は淀川の川底になった場所) に建立された。この場所は水流が激しく、帆を逆に巻かなければ転覆することから「逆巻の難所」と名付け、恐れられていた。幾度も船が難破し、数多くの犠牲者が出たため、慰霊と船便の安全守護を祈願して、

この地蔵が建てられた。明治 31 年 (1898 年)、淀川改修のころ、観仏寺の住職が緋の衣を着た僧を背負って観仏寺に着いたところ、僧が地蔵に変わっていたという夢を見て、きっと工事で動かされる地蔵がここにいたいと夢告されたのだからと考え、観仏寺が引き取り安置した。このとき、地蔵の下から犠牲者の戒名を書いた石が、80 近くも出てきたそうである。六角の台石に座る蓮台をいれて 1.6m もある大きな地蔵で、太く垂れた眉、小さい顔は、満面に慈悲をたたえている。

14. 大隅神社



◆所在地

東淀川区大桐 5丁目 14番 81号

◆概要

1700 年ほど前、この大隅島に離宮を営んでおられた応神天皇 (大隅宮) が崩御の後、里人が帝の御徳を慕い宮址に神祠を建立したのが起源とされている。ある年に淀川が氾濫し賀茂明神の御神体が漂着して靈光を放ち、里人はこれを迎えて産土神に合祀し、社名を賀茂神祠と改め社殿を 2 つに分けた。3,000 坪以上の境内には杉や松が繁り、社殿も壮麗であったが、明治初年に周囲を民有地に払い下げた。そして、応神天皇を主祭神とし、名も大隅神社と改められた。境内に狛犬や灯籠が多いのは、稻生神社などを合祀したためである。

明治 37 年 (1904 年) に幣殿が設けられ、拝殿が再興改築されており、拝殿前には狛犬の列がある。

15. 大宮

おおみや



◆所在地

東淀川区大道南3丁目2番2号

◆概要

大宮は第27代安閑天皇を主祭神として祀られた神社である。安閑天皇はしばしばこの地を訪れ、放牧の適地として奨励されたので、牛を飼い牛乳を固めた酥スというもの(チーズのようなもの)を献上するなど、この土地の発展に尽くされた徳を慕って祭祀された。その

ことにちなんで明治の頃まで「乳牛牧(ちちうしまき・ちちゅうしまき)」という地名が残り、今の大隅東・大隅西小学校は大正15年(1926年)に改称するまで「乳牛牧尋常小学校」と称していた。

また、この地は聖徳太子の伝承が多く、主祭神御神体の木像は聖徳太子の直作といわれている。たびたびこの地を訪れた聖徳太子は42歳のとき、村人達の歓待のお礼にと自画像を描き贈られたことが今に伝えられ奉祀されている。その旧跡であることから、大阪市へ編入される大正14年(1925年)まで「西成郡天王寺庄」と称していた。また、このとき太子の別称とよとみ豊聡耳皇子から「豊里町」と名づけられたといわれている。

境内は数本の楠につつまれて、本殿、聖徳太子社、日天社、八幡社、楠稻荷社、豊光社などがたたずんおり、祭事には大勢の人々が訪れる。



16. 豊里大橋



◆所在地

東淀川区豊里3丁目～旭区太子橋2丁目

◆概要

本橋は、万国博覧会の関連事業として昭和45年(1970年)に完成した。橋長561mのうち、河川中央の低水敷部分に377mの斜張橋形式が採用された。水面から45mのA字形の塔と、そこから斜めに張って主桁を吊っているケーブルが外観上のシンボルにもなっている。本橋の完成に伴い、300年の歴史をもち、淀川最後の渡船場であった「平田の渡し」が姿を消すことになった。名神高速道路への連絡のほか、大阪北部と東部の工業地帯、さらに南港地域を結ぶ交通の大動脈としての機能を果たすとともに、そのバランスのよい外観により都市景観の向上にも寄与している。昭和58年(1983年)から夜間のライトアップも行われており、ランドマークとしての役割は、より一層大きくなっている。



17. 須賀森公園とくすすがのもりこうえん



◆所在地

東淀川区西淡路4丁目17番

◆概要

須賀森公園は須賀神社の跡地につくられた公園である。その由緒ある跡地を永久に保存するため、地元民の熱意で公園に姿をかえ、憩いの場となっている。ここには樹齢約600年の大楠があり、大阪府天然記念物に指定（昭和56年（1981年）6月1日）されている（樹高30m、直径1.6m）。



18. 中島大水道跡なかしまだいすいどうあと



◆所在地

東淀川区西淡路5丁目1番

◆概要

江戸時代、北中島一帯は一万数千石の米を生産する農村だったが、低湿地で土砂堆積による洪水がひどく、一柳太郎兵衛、西尾六右衛門、沢田久左衛門の三庄屋が先頭に立って、幕府に排水路の設置を強く訴えた。幕府は「工事の費用は、すべて百姓が負担する」という条件をつけて設置を許可したが、不作に苦し

む村民が「せめて多少の補助を」と嘆願すると、感情を害し、許可を取り消した。耐えられなくなった三庄屋は、延宝6年（1678年）3月11日、新太郎松樋を水路の拠点として、無許可のまま工事を強行した。村民たちは老若男女を問わず工事に参加し、昼夜の別なく働いて、福村吐口樋までの5102間（約9200メートル）、深さ3尺（約90センチメートル）の水路を28日間で完成させた。

現在の東淀川区から西淀川区に至り、大阪湾に直結した大水路は埋め立てられたが、西淡路5丁目の新幹線の高架のそばに「新太郎松樋」の石柱と「中島大水道頭彰碑」（昭和63年）が建てられている。